

日付:2015年9月20日／聖書:出エジプト記34:1～10、27～28

主題:「世界の平和と安全—安保法案強行採決を受けて—」

政治には二つの役割があるといわれる。一つは国民を飢えさせない。安全な食べ物を食べさせること。もう一つは、絶対に戦争をしないということ。これは憲法の言葉で言い換えれば、「生存と健康に営む権利」(前文、25条)、「恒久平和と戦争放棄」(前文、9条)ということになる。しかし今、日本の政治は、その憲法を形骸化し、生存と健康に営む権利、恒久平和と戦争放棄を脅かす安保法案強行採決した。戦後70年の節目に「戦争しない国」から「戦争する国」へと舵を切ったということである。安倍首相は、安保法案を「国家と国民の安全を守り、世界の平和と安全を確かにするものだ」と言うが、他国を攻撃すれば、反撃されるのは常識。沖縄には、在日米軍基地の74%が集中しているゆえ、戦争になれば、沖縄が真っ先に標的となる。沖縄がまた「捨て石」にされるということだ。

今朝の出エジプト記では、再びモーセがシナイ山に登り、神の戒めを改めて受けることが記されている。そもそも十戒とは何か？ 1から4までの戒めは、神と人との関係性のメッセージである。そして、5から10までの戒めは、人と人との共に生きて行くための関係性が記されている。この10の戒めに対して最も背を向けているのが国家である。国家繁栄のために戦争を起こし、戦争の名の下に隣人を殺させる。軍の慰安婦として他国の女性を連行し、姦淫を強要する。若者を戦場に送り、父母より先に死なせ、拳銃の果ては、国家の総統を、人間を神として崇拝せよと、国民に強要する。国家ほど、神がくださった十戒に背くものはない。

モーセは、神に呼び出されて再びシナイ山に登る。ここは、最初に十戒が与えられた事と今回では何が違うのか？ 最初の十戒は、神が一切の事を成して(31:18)、さあどうぞ、と授けたのに対して、今回は、モーセ自身が石の板を準備し、神がおっしゃる言葉をモーセ自身が記すということとした。この事は、神が一切の事を成すのではなく、モーセの働きを介して、神の御業が示されたということである。この事は見逃しやすい小さなことだが、しかし今、このことに注目することは非常に大事なことである。神は今、人の働きを介して神の御業を示そうとしているのである。「世界の平和と安全」もまた、人の働きを介して成されていくもの。それが真実か偽物か、しっかりと見抜く力が必要。神は、私たちを通して神の御業を示そうとしている。安保法案強行採決という歴史的過渡期に立つ今、私たちに出来ることを担わせて頂きたい。二度と沖縄戦の悲劇を繰り返さないために。(神谷)